東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー
テーマ

奉仕を通じて
平和を

Vol.46　第2252回例会　2013.2.28

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
相羽例会運営委員

■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：
村田会員

■会長報告　中丸会長

皆様こんにちは。先週の地区大会と沖縄親睦旅行には、多くの会員・家族の皆様が参加され有難うございました。お疲れになった方もいらっしゃると思います。ご苦労様でした。地区大会のホストである宜野湾ＲＣの皆様には多忙な中、懇親会を開催していただき感謝しております。先日宜野湾ＲＣの新垣会長には丁重にお礼のお電話をさせていただきました。

懇親会には、宜野湾ＲＣと友好クラブである2760地区名古屋守山ＲＣのメンバーも8名ほど参加され、当クラブのメンバーとも懇談されました。名古屋守山ＲＣから当クラブにバナーとお土産を頂戴いたしましたが、当クラブは事前に知らなかった為、用意していなかったので改めて後日バナーと例会で食べられるようなお菓子でも送ろうと考えています。

名古屋守山ＲＣからは「今後お付き合いをして行きましょう。また、来年50周年を迎えますのでその節は是非お越し下さい。」との申し出をいただきました。理事会で前向きに検討して行けたらと思っています。

さて、今回沖縄で世間は広いようで狭いことを再認識しました。と申しますのは、名古屋守山ＲＣの直前会長の森様は毎年、ある団体の関係で秋津を訪れ秋津の不動産会社社長の友人であるとの事でした。私は先代の社長と業界の北多摩支部にて一緒に理事を務めた関係でこの方を存じ上げていますので、正直名古屋の職業の違うＲＣメンバーから名前が出たことに驚きました。本当に世間は広いようで狭いですね。

最後に今回の地区大会と親睦旅行では、クラブ管理委員長を始めとする皆様と菱沼事務局、本当にご苦労さまでした。有難うございました。

■幹事報告　赤木幹事

■ガバナー事務所：
・第18回国際ロータリー日本青少年交換研究会広島会議開催の案内
2013年5月18日（土）～19日（日）
於　広島平和祈念資料館
登録料　10,000円

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

・地区大会御礼の受理
石川ガバナー、地区大会実行委員長よりお礼文

・ロータリーを語る詐欺メールの注意喚起について
連絡先：日本事務局まで(03-3903-3161)

・2012～13年度「賞・表彰」申請について
各締切　3月31日もしくは4月15日

・2012～13年度ＲＩ第2580地区地区協議会開催について
2013年4月10日(水)　13:30～
於　ハイアットリージェンシー東京
クラブ役員8部門9名・地区役員

・シュン(瞬・旬・春)プロジェクトのウェブサイト開設のお知らせについて
東京四谷ＲＣと相馬ＲＣが実施した、2011～12年度Ｒ財団新地区補助金プロジェクト「相馬地区の子ども達への支援プロジェクト」のウェブサイトを地区ホームページにて開設

■東京秋川ロータリークラブ：
・創立40周年記念式典の案内について
2013年4月26日(金)　16:00～登録　17:00～式典
於　フォレストイン・昭和館
登録料　10,000円

・2012～13年度第6回現・新合同多摩分区連絡会の案内の受理
2013年4月14日(日)～15日(月)
於　ホテル小暮(伊香保温泉)
　　14:00受付　14:30開会

・2012～13年度多摩分区ＩＭ　ＤＶＤの受理

■社会奉仕委員会：
2013～14年度地区社会奉仕委員会開催の案内の受理
第一回　3月21日(木)　15:00～
第二回　4月3日(水)　15:00～
於　ガバナー事務所

■次年度ガバナー補佐：
次年度地区委員の人選依頼について
2013～14年度地区インターアクト委員会
委員の選出依頼

■国際ロータリー日本事務局：
2013年3月のロータリーレート　1ドル＝92円

■東村山市緑を守る市民協議会：
春の緑の祭典プログラム印刷にかかわる広告内容の確認及び平成25年度賛助会費の納入のお願いについて
4月29日(祝)開催「春の緑の祭典」

■回覧：
ロータリー補助金ニュース
ロータリー財団：大きな達成を遂げた1年

■出席報告　田中例会運営委員長

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
29	24	0	3	88.89

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：0名
■前々回出席率メークアップ修正後：100％
■前々会メークアップ者：
飯田会員：京都西ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理会員

■ご結婚祝月：
■会員誕生祝月：
中條会員

◆中丸会長、赤木幹事：
沖縄での地区大会、親睦旅行には多くの会員、家族の皆様に参加いただきありがとうございました。皆様ご苦労さまでした。

◆野澤会員：孫5人目にして、初の男の子が一昨日生まれました(娘の子ですが)。祝盃です。また本日卓話の機会を与えて下さりありがとうございます。

◆石山会員：おかげ様で沖縄地区大会並びに親睦旅行滞りなく終了いたしました。皆さんご協力ありがとうございました。写真ありがとうございました。

◆野崎会員：沖縄地区大会と親睦旅行は大変楽しくリフレッシュできました。石山親睦委員長、町田宜野湾友好委員長、大変お世話になりました。

◆小町会員：地区大会楽しかったです。石山クラブ管理委員長ご苦労様でした。初の女の子の孫が本日誕生しました。

◆嶋田会員：地区大会お世話になりました。写真を頂きました。
◆野村会員：石山クラブ管理委員長、沖縄旅行ご苦労様でした。

本日のニコニコ合計：　24,000円
累　　計　：　973,800円

■委員長報告

■石山クラブ管理委員長

皆さん、こんにちは。先程ニコニコＢＯＸでも発表したとおり、おかげ様で沖縄地区大会並びに家族親睦旅行を無事に終了することができました。ありがとうございました。また本日、集金しました旅行代金より沖縄ツーリストにお支払いした代金の差額をお戻しさせて頂きました。現地でかかった費用は、親睦費にて拠出いたしました。3日間本当にお疲れ様でした。

■歩こう会
野村(裕)会員

皆さん、こんにちは。歩こう会より連絡させて頂きます。昨日あたりから春らしい陽気になってきて、外に出たいという気持ちになっていらっしゃるのではないかと思います。そんな中、第2回の東村山ロータリークラブの歩こう会を3月23日(土)に開く予定です。場所は、前回は多摩湖の周囲道路を回りましたので、その東側ということで、八国山から西武園ゴルフ場のうしろの荒幡富士(所沢)、この辺りを巡ろうということになりました。桜の開花予想日が25日なので、天気がよければ桜もちらほら見えるいい陽気だと思いますので、ふるって皆様のご参加をお願い致します。
当日は東村山駅西口「停車場の碑」に午前9時に集合して、そこから歩きます。諏訪町を通って八国山の一番東端まで行き、そこから八国山に登っていくことになります。将軍塚や尾根道を通りながら一番西の端、西武園駅まで行って、西武園ゴルフ場を左手にみながら回りこむと荒幡富士まで約30～40分で行きます。荒幡富士を登って、最後は菊水亭に到着、菊水亭でランチをして、その後解散という形で進めております。
参加の希望者を募る回覧にルートも書いてありますので、ご夫婦その他、お誘いあわせの上大勢の参加をお待ちしております。今回の幹事は、田中会員と私の2人ですので、よろしくお願い致します。

■田中ゴルフ部部長

東村山ロータリークラブ ゴルフ部よりお知らせです。4月2日(火)西武園4組予約してあります。奮って参加お願いします。目時パストガバナー補佐様より体調も戻ったことだし、ゴルフ部の発展に寄与したい(これは勝手に思っています)ということで、野澤パスト会長様にお骨折り頂きました。青梅さん、武蔵村山さんをはじめ、他クラブのレベルも上がってきています。今年も王者として頑張って、王道を邁進しましょう。清水さんも入会されますし、今年こそ悲願の地区大会優勝を勝ち取りましょう。

■３分間スピーチ

■発表者紹介：
山本職業奉仕委員長

皆さん、こんにちは。まず沖縄の旅行では、皆さん大変お疲れ様でした。石山クラブ管理委員長、いろいろとご苦労様でした。町田宜野湾友好委員長と、大変お忙しい中、お骨折り頂きましてありがとうございました。素晴らしい親睦が図れたと思います。
それでは、本日の3分間スピーチは野崎一重パスト会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

■発表者：野崎一重会員

皆さん、こんにちは。3分間スピーチの前に地区委員の報告があります。明日、3月1日(金)は米山奨学会の修了式が新宿のハイアットリージェンシーで行われます。石川ガバナー、戸田パストガバナー、カウンセラーが出席されて、前半の一時間程ディスカッションを行い、それから式典に移り、最後に懇親会が行われます。予定では20時ごろに終わる予定です。私の方は在籍年数が長いものですから、第一部では受付や会場監督の責任者で、第2部は親睦会の司会を行うことになっております。
それでは3分間スピーチに移ります。2月はいろいろな記念日がありまして、2月11日は建国記念日が昭

和41年に施行され、戦前は紀元節と呼ばれ神武天皇が即位された日を記念したもので、昭和15年に2600年の式典が行われています。また、大岱稲荷神社の初午祭の日でもあります。

2月14日はバレンタインデー、2月22日はネコの日でもあります。また、今月2・26事件があった月でもあり、国旗について考えてみましょう。

14年前に青少年交換留学生と合宿した時、朝礼の際の国旗掲揚時に、日本人学生が寝ぼけ眼でダラダラしていると外国人学生が気をつけをしている姿を見て、慌ててそれに倣ったことを記憶しています。

昨年8月に北京の丹羽大使の乗った公用車の国旗が強奪されたという事件がありました。日本のマスコミは一面では取り上げましたが大きな扱いではありませんでした。また、日本の民主党政府も通り一遍の抗議をしただけでした。

昭和33年に長崎国旗事件というものがありました。事件の概要は、日中友好協会の主催で長崎のデパートで中国切り絵展を開催していました。当時日本は、台湾の国民政府と国交を結び、中国とは国交がありませんでした。その会場に飾られていた五星紅旗を引き摺り下ろしたという事件です。日本の裁判所はその旗を外国国章と見做さず、運動会に使用する万国旗と同様の扱いを罰金刑にしたところ、中国政府は商談が終わった鉄鋼の輸出などをはじめ、経済交流の断絶を行いました。

ことほど左様に国旗というのは重要な意味を持っています。日本はアイヌやオロッコという民族もいますがほとんど単一民族なので、国旗の重要性についての認識が足りないようにも感じられますが、国家統合のシンボルとして日の丸をもっと重要に考えるべきと思いますがいかがですか。外国に出ればなおさら感じるはずです。

■卓話

■卓話者紹介：
小町会員研修副委員長

皆さん、こんにちは。先日の3日間の沖縄地区大会では石山委員長いろいろとありがとうございました。前日に行く行かないでご迷惑をおかけしましたが、楽しく行くことができまして、本当にありがとうございました。また印象に残っているのは、コンベンションホールでの会議の中で一人、3階で聞いていたのですが、3階の誰もいないところで見下ろして会議を聞いていると非常に感動しました。１、2階では味わえないようないつもと違う雰囲気が味わえてよかったと思います。

ご紹介の前に、皆さんは箱根の山が膨らんでいるという話は聞いていますか。東京の直下型につながるのではないかということで、そんな話もちらほら報道されています。専門家筋では要注意ということではあるようです。

それでは本日の卓話ですが、会員研修委員会の担当ではありますが、「ロータリー理解月間に因んで」ということで、野澤会員にお願い致しました。卓話のご清聴、よろしくお願い致します。

■卓話者：野澤会員

ロータリー理解月間に因んで

皆さん、こんにちは。だいぶ暖かくなり、春らしくなってきました。先日の沖縄では大変お世話になりました。沖縄でゴルフをやってきたのはいいのですが、中2日おいて実は日曜日に廻田会のゴルフコンペがありまして、沖縄に行くと言っていたものですから、皆に「いくつで回った？」「那覇クラブはどうだった？」と質問が飛び交い、とうとう言わざるを得なくなり「午前中62打ちました」と言ったら皆、大喜びしでしたので、二日酔いと強風のせいにしました。ここ近年にないワーストスコアの107回を打ち、記録をつくりました。それは別として、素晴らしいコースでできましたことを大変うれしく思っております。

今日は野崎さんの方から、2月の記念日の話がいろいろとありましたが、2月23日はロータリーの創立記念日でもあります。ガバナー月信2月号でも、石川ガバナーが「ロータリーの心と原点」というテーマで、ポール・ハリスがなぜロータリーをつくったのか、その創立の原点に触れています。

私も平成23年2月のロータリー創立記念会で、ポール・ハリスの「五年間の放浪の旅」をテーマに、ロータリーをつくった経緯について卓話をさせていただきました。そして今回、再度ロータリーの理解月間に因んで卓話の機会を与えていただきましたので、この機会に改めて勉強をしたいと思い、そのチャンスを与えていただきました東村山ロータリークラブに感謝しながらお話しさせていただきます。

「ロータリーの創設者、ポール・ハリス」この本に巡り合うことができました。この本はポール・ハリスの生涯について、国際ロータリーの事務総長を長く務めたチェスリー・ペリーが書いたとても貴重な本で日本に数冊しかない、といわれております。これを昭和3年(1928年)日本のロータリーの創設者であります米山梅吉さんが翻訳されて出版されたものです。そして再版されたのは、昭和51年故米山梅吉没後三十回忌を記念し、当時東京南ロータリークラブの会員でした米山桂三氏(梅吉さんのご子息)の許可を得て京都西南ロータリークラブが発行したものです。

この貴重な本を昭和54年(1979年)当クラブの故阿部先生が京都西南ロータリークラブより入手したものであります。この本の末尾に「昭和54年3月3日、京都西南クラブより送付」と記録されています。阿部先生の印が押されているので直筆であることは間違いないでしょう。ただもう一つ、1989.2.23？？？これはこの本を入手した日より10年後ですので、この日付は何を意味しているのか分かりませんが、多分2月23日はロータリー創設の日ですのでこれにちなんだ何かであろうと思います。阿部先生が亡くなられて間もなく上野先輩より頂いた貴重な本ですので、大事にしたいと思います。

さて、ポール・ハリスが3人の仲間、石炭商のシルベスタ・シール、鉱山技師のガスターバス・ローア、そして洋服仕立て屋のハイラム・ショーレ、この4人で1905年2月23日、ローアの事務所ユニティービル711号室で初めての会合を持ったのがロータリーの始まりでありました。

ここに至るまでの経過を少し述べてみます。ポール・ハリスは学校を卒業して5年間放浪の旅をしたわけですが、この間の職業体験は10以上の職種に及びました。この5年間(正確には4年と9か月)の放浪の旅を終え、シカゴに戻っていよいよ弁護士事務所を開いて仕事を始めるのですが、当時アメリカは、いやアメリカのみならず、資本主義、自由主義の始まりは世界的風潮でもありました。とりわけこのシカゴにおいても利己と悪意に満ちた時代、商工会議所も同業組合もなく、共同募金も赤十字社もありませんでした。ラジオ、テレビはもちろん、飛行機などとんでもない、自動車がようやく走り始めたころでした。街はギャングがはびこり、ビジネスでは騙しあい、詐欺が横行し、騙すより騙される方が悪い、なんでも早い者勝ちだ、などと荒れ放題の世の中、商業道徳は地に落ち、人々の心は荒んでいました。そんな社会ですから争い事や裁判も始まり、訴訟は目白押しとばかりに増えていきました。当然いろいろな分野で法整備が急がれたわけです。おかげで弁護士事務所の仕事は非常に多忙を極めました。仕事は山ほどありました。しかしながらとても寂しい思いもしていました。それは、職業上の知人はたくさんできましたが、真の友人はできない、週末の日曜日、午前は教会で癒されましたが、午後はとてつもなく心が満たされない寂しさが訪れました。そんな毎日に没頭し沈思黙考すること5年の歳月が流れました。ある日、一人の友人を紹介され、その友人と街を歩くと彼は商人の人に声をかけ、工場に立ち寄り話をし、とても多くの友人がいることを見せつけられました。

少し話を地元に戻すと、金子弁護士さんが東口に弁護士事務所を開設しました。仕事はいろいろと忙しいのですが、なかなか地元の友達ができない。ある人が嶋田憲三さんという人を紹介してくれました。「嶋田さん、私も事務所を開いたのはいいのだけど、なかなか友達がいなくて寂しくて。」というと「じゃあ、おれの後をついてこいよ。」と、一緒に連れだって西口を歩いていくと、まず駅前の小田井さんのところで「先輩、お元気ですか？健康でいいですね。」そして向かい側の餅萬で「深井くん、仕事はどうだい、忙しいかい？」その隣の八百屋さんでは「秋山さん、今度一杯、一緒にやろうよ。」また、ずっと歩いていくと木下米屋さんに行って、「木下さん、また米の配達頼むよ。」こんな姿を見て、「うらやましいですね。嶋田さん、何でそんなに友達がいらっしゃるんですか。」「哲ちゃん、地元で事務所を開いたら地元の付き合いをしなさいよ。そうすればたくさん友達ができるんだよ。」といった場面と同じだったんではないかと思います。

それでポール・ハリスはこの街にもおれと似たような人がたくさんいるはずだ、政治や宗教にとらわれない、心を打ち明けられる友人ができないはずはない、さらに一業一会員制にすれば利点はたくさんあるはずだ、こうしてポール・ハリスは友人を口説き始めたのであります。たまたま先に述べた三人には共通点がありました。それは、皆が小さな町で事業を興し、成功してこのシカゴという大都会に進出したということ、さらに皆が友を求めていた、このことが最大の結束につながったことなのであります。

かくして、この4人は第一回の会合を持ち、次のような決まりを作りました。

1.会場、座長及び会員についてもローテーションとしよう。
　※循環性、公平性をきたす(ロータリーの名前の始まり)
2.会員の資格期間も一年と定め、継続して会員となるためには改めて推薦が必要。
　※なれ合いを防止する
3.会合は出席義務としよう。
4.欠席の場合は50セントの罰金を支払うこと。
　※義務と権利を守り運営費の備蓄となる

1906年、創立2年目に二ケ条の綱領ができる。

第一条 会員の業務上の利益の進行。
第二条 会員の親睦の目的の進行。

これに加えること

第三条 シカゴ市と市民のために･･･

という社会奉仕的文言が加えられた。

この第三条は、ドナルド・カーターに入会を勧めたところ、クラブ内部の利益の交換だけでは社会的意義はない、物質的な互恵主義だけでは社会的存在価値すらない、そんな会は入会に値しない、と厳しく批判され入会を断られました。

ポール・ハリスの柔軟な心は、この厳しい批判を甘んじて受け入れ、すぐさま第三条にこれを入れたものです。では、なぜ二ケ条で出発したのでしょうか。

余談になりますが、ポール・ハリスは昭和10年日本を訪れています。(ガバナー月信2月号参照)　ポール・ハリスは1935年サンフランシスコからハワイを経由して日本を訪れています。一行は日本の表玄関である横浜港に入港して、車で東京に向かい、帝国ホテルの庭に友好の木を植えています。晩餐会は日本料理で有名な紅葉館で開催され、日本のロータリーの先駆者である米山梅吉翁にもここで初めて面会したと伝えられています。

当時の会長のロバート・リー・ヒルを始め、一行は日本のロータリアンから大歓迎を受けていますが、多くの質問も受けたといわれています。その一つに「あなたはなぜロータリーをはじめたのですか」という質問であります。ポール・ハリスは「淋しかったから」と答えたと伝えられています。このことからしてもロータリー創立の動機は、心からの友人を作りたかったことであります。

ロータリー創立3年目にポール・ハリスはシカゴクラブの会長に就任します。このころより会員も次第に増え、アーサー・シェルドンも入会してきました。シェルドンは商業学校の経営と同時に、ロータリーでは奉仕哲学の創案に努力し、「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という標語を作りました。同じころ、ミネアポリスクラブのフランク・コリンズは「超我の奉仕」を提唱しました。いずれも原文は「すべての会員が最も良く奉仕するとき、すべての会員が最も多く報われる」「無視の奉仕」でした。

この2つの標語は1950年(40年以上も経って)、ロータリーのモットーとなりました。さらに1989年(30年も経って)規定審議会で正式に第一標語として採択されました。

戻りますが、シカゴクラブ創立3年目、ポール・ハリスはこの時すでに三つの野心(目標)を抱いていました。

1. シカゴクラブの発展を益々促進すること。
2. ロータリー運動を他の諸都市にまで拡大すること。
3. クラブの目的の中に社会奉仕の項目を加えること。

創立2年目にドナルド・カーターの厳しい意見を受け入れられたのは、「我が意を得たり」の心中だったのかもしれません。

その後、第2番目のクラブがサンフランシスコにでき、急激に全米の主要都市に拡大され、1910年16クラブができ、会員も1,800名となりました。この年シカゴにて

ロータリー連合会が発足され(ＲＩの前身)、ポール・ハリスが初代会長に選任され、チェスリー・ペリーが幹事(後の事務総長)となりました。この連合会発足を契機に、ロータリーは世界的に拡大され、日本でも1920年(大正9年)世界で855番目のクラブとして東京に設立されました。ロータリーの創立が1905年ですので、15年間に855、1年間で57クラブ、この数を見ても世界的に驚異的に拡大されていったわけです。

この頃より全米の各地で身体障害児の救済活動が広がっていきました。当然、ロータリークラブも格好の社会奉仕活動としてとりあげました。1913年、エドガー・アレンという会員が一人の身体障害児を救ったことに端を発し、全米ロータリークラブがまるで熱に浮かされたようにこの運動に取り組み、国際身体不自由児協会まで設立され、ロータリークラブの看板事業にまで発展しました。そしてこの活動が10年も続いたころ、シカゴクラブも300名を擁する大クラブとなりました。

1923年、ロータリーが成人期に達するこの時代、親睦派と奉仕派、個人奉仕か団体奉仕、社会奉仕か職業奉仕、さらに大都市と地方都市の違い、これらの論議が三つ巴、四つ巴となり、かんかんがくがくの論争が展開され、一時はロータリー分裂の危機に瀕しました。当時のシカゴクラブ会長のウイリアム・ウエストバーグはテネシー州ナッシュビルロータリークラブのウイリアム・メイニア・ジュニアと相談し、これからのロータリー活動の指針を作る。そこで生まれたのが決議34号、社会奉仕に関する決議であります。(決議23-34号)これができてから、ロータリークラブでは各地で社会奉仕に関する運動が展開されていきました。1950年、ＲＩ規定審議会は道徳律を削除し、職業奉仕に関する指針を公文書から削除しました。しかし、1989年、種々の議論の結果、30年も経ってから職業奉仕に関する新方針が提案されました。この決議23-34号以来、ロータリーは社会奉仕団体、慈善運動団体の様相を拭い去れなかったわけです。

ロータリーが成人期に達したころより、1927年には職業奉仕、四大奉仕の確立、1935年には綱領が制定され、1950年には理念、二つのモットーが出来ました。1955年には四つのテストが創案され、1989年には職業奉仕に関する新方針が提案採択されたわけです。これは、ロータリー誕生以来、実に80年以上もたった今日、ロータリーの求める本来の倫理、道徳運動に戻った、ロータリーの金看板は職業奉仕であります。

しかしながら次に問題となったのは、職業奉仕とは非常にわかりにくい、説明できないという論議が彷彿としてきました。職業奉仕とは、もとより個人のもの、自らの職業を品位あらしめること、自己を律し高めること、もって自己の職業そのものが奉仕である。これに対し、解りやすい団体奉仕の導入、クラブに職業奉仕小委員会を設置、事業としては青少年への職業相談、職業指導、職業情報、活動表彰等の導入等が制定されました。そして8項目にわたる職業宣言がようやく採択されたわけです。

本来、ロータリーの哲学であります職業奉仕、また、親睦と奉仕。これは深川純一さんも先の地区大会の講演で「ロータリーの心」ということで言われましたが、職業というのは自分のためのものであり、倫理的な心で職業をする、これは内なる力であります。奉仕というのは世のため人のためにやる、外への力であります。この内なるものと外への力の調和、これがロータリーの哲学だと言っております。そして、親睦と奉仕ですが、親睦も会員やクラブ、これは内なる力です。奉仕は世のため人のため、これは外への力です。親睦のエネルギーを奉仕に変えていく、親睦というエンジン、奉仕という荷物を積んでいく、この逆はありえません。ゴルフや飲み会という親睦、この手段を通して自分の心や特性を磨いていく。いずれも内と外への相反する力の調和、その心がロータリーの思想の原点である、と言っております。

一般的職業は家族や従業員を養い、利益を追求するものでありますが、ロータリーの職業は神の思し召しによってこの世になさしめたものと理解していいと思います。四大奉仕には①クラブ奉仕②職業奉仕③社会奉仕④国際奉仕がありますが、この順番を変えてはロータリー哲学の奉仕活動はあり得ません。

先に述べたポール・ハリスはロータリーの設計者、アーサー・シェルドンは革新者であり哲学者、チェスリー・ペリーは建設者、管理者でＲＩ事務総長として32年間歴代会長に尽くした人です。この3人にあらためて偉大な敬意を表しまして、今日の卓話とさせていただきます。ありがとうございました。

■点鐘：中丸会長